

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で利用者が安心安全な生活が出来る。ケアプランの作成や地域住民の方への協力を意識してお付き合いを大切にしています。	ホーム理念の「心豊かに 安心できる暮らし」を玄関に掲げ来訪者にわかり易くするとともにホームの「あおい新聞」に理念を載せ家族にも周知している。職員会議や申し送りでは特に利用者が安全で安心して暮らせるように具体的に話し合っている。日々の支援の中で職員が理念に照らして躊躇したり疑問を感じたことについては管理者や主任に指示を仰いだり、法令や基準を調べ、ホームとしての意思統一をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と会う機会が少ないのが現状です。地域住民と良い関係作りのため挨拶をする。来訪したボランティア等には丁寧な対応に配慮しています。	自治会に加入し会費の支払いをしている。ホーム隣にあるアパートの住民や幼児、近所の有料老人ホームのお年寄りや訪問看護事業所の職員などとホーム玄関先で日常的にふれあっている。また、ホームのすぐ傍を通る県道を歩行者天国にして行われる花フェスタなどに出かけ近所の住民とも挨拶を交わしている。傾聴やフラダンス、三味線、尺八、民謡などの多くのボランティアがホームへ訪れており、訪問日当日の午後もアコーディオン演奏が予定されており歌好きな利用者が楽しみにしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者認知症の学習会に定期的に参加し実践例を説明し理解を求めたり介護について相談助言を行います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修会で研修したことを発表し利用者のサービス向上に努めています。	利用者代表、家族代表、地域住民代表、民生児童委員、第三者委員、市職員などで構成し定期的に開催しており昨年度は防災をテーマに消防署員の指導を受けたり、出席者からも助言をいただいた。今年度はホームでの援助内容や対応について理解をいただけるように継続して議題として取り上げる予定で直近の会議では「移乗について(車椅子・ベッドなどへの)」説明し実際に介助を体験していただいた。ホームの現況報告を冒頭に行い、出席者から利用者のレクリエーションとして楽器の演奏などを取り入れたらどうかとの提案もありホームでも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議の際には現状のサービス内容を説明し意見交換を行います。家族代表、住民の要望等も課題として検討を行います。	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に出席し情報交換をしたり研修を受けている。特に研修について自由に受講することができ、都合のつく職員が出席し職員会議などを使い後日伝達講習し共有するようにしている。市窓口との関わりのある介護保険更新申請や区分変更申請は家族と相談し代行している。介護保険更新時の認定調査についても家族と連携を取りながら調査日にはホームで利用者の情報を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について職員研修を実施、意識を高めます。安全対策のため玄関は施錠しているが外出できそうな時は付き添いします。	毎年、1回、「身体拘束」の勉強会を行い、毎日の業務の中で拘束のない自由な暮らしを提供している。職員は身体拘束について正しく理解しており、その必要性がある場合にはリスク回避に配慮しながらベッドを低くし布団を敷くなど、拘束に当たらないよう対策を講じている。ホームの前が周辺の共同駐車場となっているため必要に応じて玄関の鍵は掛けているが、利用者の要望や様子を見ながら声がけし一緒に外出するようにしている。	

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についての研修や支援方法を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の状態とその家族に個々の必要と思われる時、連携をとって活用できる支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時点で施設見学を進め重要事項の説明をし入居申込みを受け付けます。入居時は再度重要事項の説明をして了解をとる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート等の実施はしていない。毎月1回面会に見えている家族とは必ず話をしている。近況を手紙と「あおい新聞」で知らせている。	家族には利用料をホームに直接納めていただくようお願いしているため、少なくとも1ヶ月に1回は家族の来訪がありその都度意見や要望を聞いている。月に3回から4回来訪する家族もあり、職員は必ず声をかけるように心がけている。利用者の近況報告などを含め話すことで家族からも在宅時の新たな情報をいただくこともあり職員との親密度も深まっている。ホームよりのお願い、外出や行事のスナップ写真などを掲載した「あおい新聞」が毎月発行されており、また、それとは別に管理者からも手書きの便りが家族に送られており意思疎通が円滑にされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修を受け利用者への対応に生かされていることを知ってもらう為、あおいの職員との接点を設け反映している。	毎月1回、業務のことや研修報告などを議題にした職員会議を行っている。事前に会議のレジメを職員に配布することで意見が出やすいようにしている。毎日の朝礼の後、1階と2階に分かれ、ユニット毎に申し送りをしている他、昼食後に主任やその日のリーダーが集まり課題を検討している。1階、2階ユニットの職員の固定化はしておらず、ローテーションを組んで勤務しているので職員のチームワークも取れている。管理者と職員の面談も年に2回ほど予定されており、職員の勤務状況や介護技術について相談したり助言を受けたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に持っている力を生かせるような係分担に配慮している。夜間勤務状況での体調の負担との健康管理にアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談日を設け職員個々の状況を把握しアドバイスしている。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と勉強会を実施又、事業所間と行事等で交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を把握し困ったこと、不安な要因を聞き取り、意識したコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の事前面接の時、家族の思いや不安なことを聞き、一緒に支援を考えていくことを伝えていつでも相談できることを理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時、家族の望んでいることを確認し支援方法を含め話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者を支えあう関係は、まず利用者一人一人を理解することからはじめ、その人に合った介護ができるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い状態を理解してもらい話し合いをする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えた方に次回も訪れていただけよう伝えたり、住んでいた所へドライブしたり、知人と会って話が出来るよう支援している。	利用者の平均年齢も86歳と高齢化が進み、友人や知人の来訪を受ける利用者は少なくなりつつあるが多くの教え子の訪問を受ける利用者がいる。利用者自身での対応は難しいが携帯電話を持つ利用者や正月に年賀状を出したりする利用者もあり職員が支援している。お盆や正月に家族の送迎を受けながら一時帰宅する利用者もいる。ホームでは今年度も「ふるさと巡り」を企画し、利用者が昔から馴染んだ地域の花の名所や旧跡などを少人数で訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間同士で同じ場所でくつろいだり趣味の作品作り、レクリエーション等で楽しむ時間の設定をする。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除手続きの時に「お手伝いできることがあったら、声をかけてください」とこれからもつながっており共に足し合える状況があることを伝えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中で本人の願いや望みを聞き取り、一人一人のスタッフの意見を合せてマネジメントを行います。	殆どの利用者が自分の意思を言葉で表わすことができ、ふだんの暮らしの中での要望は聞き取ることができている。利用者も日により、また、一日の流れの中でも状態に変化があり言葉を発することが難しいこともあるので職員の声かけにより促すこともある。土用の丑の日に「うなぎを食べたい」という声を利用者から上がったがすでに昼食のメニューとして用意がされており殆どの利用者が完食をされたという。入浴や外出についての意向についても職員は可能な限り受け入れるようにしている。ホーム開設からまもなく満3年目になるが、1階、2階ユニットの職員の固定化はしておらず、ローテーションを組み職員は18人の利用者についてその時々思いに浴えるようにしたいと一人ひとりの利用者への対応方法を絶えず検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時、本人や家族から過去の暮らしの様子を聞き取りしたりケアマネジャーやサービス利用機関からの情報を参考にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の心身状態を把握した上でその人にあった運動、散歩、レクリエーション、手作業等に工夫しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日の中で15分位カンファレンスを行っている。	現在、管理者が計画作成担当者を兼ねており利用者や家族の要望を聞き、ケアプランを作成している。職員の担当制も進めており、モニタリングを担当者が行い、午後のミーティング等で他の職員に相談しながら進捗状況を確認し実情にあった計画を作成していきたいと考えている。基本的には6ヶ月毎に見直し、状況の変化がみられた時には随時見直しをかけている。家族からの意向で外部のリハビリテーションに週1回通う利用者もあり、作成後の介護計画を説明し家族とも連携している。	全利用書の計画作成をしなければならぬ計画作成担当者の負担を軽減するためにもPDCAの流れを整理され、職員が関われることについては掘り下げていただき全職員で取り組まれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の実践と気づきに対してどの様に対応したのか記録に残し、職員間でカンファレンスを行いながら支援計画を作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な通院等必要に応じて支援を行います。ターミナルケアの付添いについても家族の要望に添って行えるよう支援します。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの会員による話し相手や小物作りの支援を受けている。美容院に出張してもらい特別料金でお願いしてる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の意向で決めています。通常の中で主治医との連携が取れているため緊急時も敏速に対応できています。	利用前からのかかりつけ医を継続している利用者が多い。協力医によるユニット毎の月1回の往診や予防接種があることから希望により協力医へ変更する場合もある。かかりつけ医の受診については基本的に家族にお願いをしている。管理者は看護師の資格があり、医療機関との連絡・相談も円滑で、担当医師や家族と相談しつつ職員のスキルも高めながらカテーテルを外したりホーム内でインシュリンの投与を可能にするなど利用者が快適に過ごせるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員配置してあります。医療面、健康管理について朝のミーティングで情報交換します。また、業務の中で常に連絡を取り合います。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時は情報の提供をします。入院中は本人の状態の把握と家族の面接に行きま。病院のケースワーカーと連絡を取りながら退院の準備と受入の体制を整えます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化したときや終末について意見書を書いてもらいますが、状態の変化により、その都度主治医、家族と相談の上支援方法をスタッフと共有してケアに当たる。	利用開始時に重度化した場合や看取りについてホームでの対応について家族に説明をしている。利用者が重度化や終末期を迎えた時点で実情に合わせ家族、医師、職員で話し合い、支援の方針を具体的に決め対応している。昨年以降、家族がホームの居室に泊まりながら最期を看取るなど3名の方をホームでお見送りした。職員も管理者の体験を基に指導を受けながら「最期に関わる仕事として自分達の悔いを残さないように一生懸命つくす」ことに徹している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎知識の研修を繰り返し行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住人も緊急協力隊を結成しており、職員と一緒に消防署の指導のもと、総合訓練を実施しています。	昼、夜を想定し、訓練を年、2回行っている。今年8月にも消防署の指導の下、通報連絡、消火、避難などの総合訓練を予定している。車椅子の利用者が多くなりつつあるが利用者も訓練に参加しており、地元地区の協力隊の方々にも可能な限り参加していただき訓練を行っている。また、運営推進委員の方々にも協力の要請をしている。スプリンクラー、自動火災報知機なども完備しており、災害時の備蓄も2日分ほど準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん一人一人にあった言葉かけを大切にしています。	間もなく開設から満3年を迎えるが職員は利用者との一線を画すことを意識し馴れ合い等による不適切な言動を慎んでいる。利用者への声かけは名前に「さん」付けが多く、昔の職業から時々役職名で声かけすることもある。入浴時や排泄時の介助についても一人ひとりのプライドを大切にしつつ見られたくない、知られたくないというプライバシーにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いを大切にする支援に努めています。特に食べる物の好みや外出等について本人の意向を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて活動できるように配慮しています。全て希望に添えるわけではないが希望に添えるよう努力はしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服装で居られるように職員と一緒に選んだり、くしで髪をとかしてもらうように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにするよう利用者にその日の献立をボードに書いてもらう。その人にあった形態で食材によっては柔らかくし、きざみ食、ミキサー食として盛り付けます。	一部介助を必要とする方が数名いるが自力で摂取できる利用者が大半である。ミキサー食にする方もいるが調理専門の職員により利用者の要望に応じた献立を立てている。糖尿病の利用者についても職員全員で対応を考えその方の数値が改善方向にあり職員の励みにもなっているという。毎月1日は「おはぎ」の日となっており殆どの利用者が完食するという。そのほか、月に2回、天ぷらや刺身などが食卓に上り、ホットプレートを使ったホットケーキやニラせんべい作りなど、手作りのおやつも楽しんでいる。移動車のラーメン屋さんが玄関に横付けし「あおいラーメン」と名付け全員で楽しんでいる。家族からの夏野菜などの差し入れも多く、玄関脇のプランターでトマトやキュウリなどが育てられ食卓を賑わしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により一日の必要量が計算されています。水分、栄養バランスを考え利用者の希望により一日3回野菜入りの味噌汁を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一日3回毎食後行っています。自分で出来る方にも声かけをし、その都度やりにくい箇所を支援します。歯医者の指示を受けガーゼ、スポンジを使用して清掃しています。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし時間を見てトイレ誘導します。パットは一人一人の尿量、時間に合せて使いやすいものを使用しています。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレ使用と体力にあわせ自立を支援しています。	布パンツ、リハビリパンツ、オムツと一人ひとりに合わせ対応をしており夜間のみリハビリパンツからオムツに変える方もいる。自立している方は数名で何らかの介助を必要としている方が多い。身体状況に合わせて利用者や家族と相談をしながら見直しをかけている。オムツの方は居室での介助が主で、他の方はトイレでの排泄を基本としている。居室での交換の時には会話をしながらプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れ、陽気を見ながら散歩等取り入れて運動をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌う人については順番を変えてゆっくり話をしてから入ってもらい、一対一での入浴で希望に合せ、ゆったりと時間と心地よい時間になるよう努めています。	各ユニットとも1日3人の利用者に入浴をさせていただいており1週間に2回の入浴としている。1階ユニットはタイル調の広いスペースで冬場の流れから午後の時間に、2階はユニットバス使用のコンパクトタイプで午前入浴としている。状況によって入浴を拒むこともあるが無理強いことなく清拭や足浴で対応することもある。車椅子使用の方には二人介助で浴槽に入らせていただいている。異性の入浴介助を嫌がる方は今のところいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の疲労度に差があるため日中の活動状況を調整します。その人のお気に入り入りの場所で昼寝を勧めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に一日の服薬サンプルをファイルし、状況が把握できる。薬の効能、副作用。処方の変更等はその都度記録に残し伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやゴミ袋作りをお願いし役割分担として張り合いを持てるよう感謝の声かけをしています。ぬりえ、読書、自分の思いを書いて表現できるような支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外へ出るのは施設の近くで、数人でおやつを持ってドライブに出かけます。売店等ではアイス等を食べ楽しめます。車椅子で町内の散歩に心がけています。	ホーム内で車椅子を使用する方が約半数ほどおり、また、ウォーカーの方も数名ほどいるので大勢で出かけることは難しくなってきた。ホーム周辺の散歩も少人数で1日何回も職員が対応している。お花見、紫陽花、蓮等、ドライブを兼ねて花を見に出かける機会も多い。また、家族と一緒に受診や買い物に出掛け、帰路に食事をしてくる利用者もいる。	

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の時間をとって一対一で付添い本人の好きなものを買って代金を自分で支払うところまで支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙など本人宛に届いたものは見ていただき返事は代筆を希望されれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのホールの飾りつけは利用者の手作りで季節感を出し、夏の間は窓際に日よけのすだれを下げ清涼感をだしています。	内装は木を基調に設計されており、落ち着いた雰囲気になっている。1階、2階ともリビング兼食堂、キッチン、トイレ、浴室などの共用スペースが中心部にあり、周辺部分が居室となっている。エアコンと冬用の夜間蓄熱式暖房器があり快適な室温に保たれている。照明にもLEDが使用されており、夜間蓄熱式暖房器と併せて省エネ意識も高い。リビング兼食堂の壁には歌好きな利用者に合わせ「信濃の国」の歌詞が掲げられ、天井には紙で作られたモールやモビール風の飾りが下げられている。2階のリビング兼食堂は1階の事務室分に当たるスペースが広く、様々なボランティアが訪れた際の交流のスペースとして利用されている。1階と2階の間には階段のほかホームエレベーターがあり車椅子の利用者も自由に行き来できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール廊下にソファを置いてくつろげる場所があります。ホールの隅にごさを敷き昼寝用の布団を用意し、いつも休める場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていたものを持ち込んで下さる家族もあり、又、生活観のにおいを感じられるように写真、ご本人が作られた絵、折り紙を飾っています。	一人ひとりの居室の入口には居室の番号が付けられ利用者によっては自室が識別しやすいように氏名が手書きで張られている。各居室にはベッドとキャスター付きの可動式の大きなクローゼットが備え付けられている。クローゼットのスペースには余裕があるので居室内は整理整頓がされていた。利用者が自宅から持ち込んだ木の机や椅子、カラーボックス、家族の写真や好きな本、知人や家族からはがきなども置かれ、ホーム利用後に職員からいただいた手作りの誕生日カードなども飾られていた。居室入口上半分にレースのカーテンを引くことができるようになっておりプライバシーにも配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわからなくなる人には目印を付け、又、夜間トイレの場所がわからなくなる人のために廊下に矢印をつけました。それにより迷わなくなりました。		